第八講　『源氏物語』（作り物語）

次の文章は『源氏物語』夕顔巻の一節で、病気で出家した乳母（めのと）を光源氏が見舞う場面である。これを読んで、後の問に答えなさい。

尼君も起きあがりて、「惜しげなき身なれど、捨てがたく思ひたまへつることは、ただかく御前（おまへ）にさぶらひ御覧ぜらるることの変りはべりなんことを、口惜しく思ひたまへたゆたひしかど、忌（い）むことの⑴しるしによみがへりてなん、かく渡りおはしますを見たまへはべりぬれば、⑵今なむ阿弥陀仏（あみだぼとけ）の御光も心清く待たれはべるべき」など聞こえて、弱げに泣く。「日ごろ⑶おこたりがたくものせらるるを、やすからず嘆きわたりつるに、かく世を離るるさまにものしたまへば、いとあはれに口惜しうなん。命長くて、なほ位高くなど見なしたまへ。さてこそ九品（ここのしな）の上（かみ）にも障りなく生まれたまはめ。この世にすこし恨み残るはわろきわざとなむ聞く」など、涙ぐみてのたまふ。

かたほなるをだに、乳母やうの思ふべき人はあさましうまほに見なすものを、⑷ましていと面だたしう、なづさひ仕（つか）うまつりけん身もいたはしうかたじけなく思ほゆべかめれば、すずろに涙がちなり。子どもはいと見苦しと思ひて、「背きぬ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る世の去りがたきやうに、みづからひそみ御覧ぜられたまふ」と、つきしろひ目くはす。

君はいとあはれと思ほして、「(5)いはけなかりけるほどに、思ふべき人々のうち捨ててものしたまひにけるなごり、はぐくむ人あまたあるやうなりしかど、親しく思ひむつぶる筋はまたなくなん思ほえし。人となりて後は、限りあれば朝夕にしもえ見たてまつらず、心のままにとぶらひまうづることはなけれど、なほ久しう対面せぬ時は心細くおぼゆるを、(6)さらぬ別れはなくもがなとなん」などこまやかに語らひたまひて、おし拭(のご)ひたまへる袖(そで)の匂(にほ)ひも、いとところせきまで薫(かを)りみちたるに、「げによに思へば、(7)おしなべたらぬ人の御宿世(みすくせ)ぞかし」と、尼君をもどかしと見つる子どもみなうちしほたれけり。

（『源氏物語』による）

注

忌むこと…出家して受戒の儀式を受けること。
阿弥陀仏…臨終に際し来迎する仏。
九品…極楽浄土は上品・中品・下品に分かれ、さらに各品は上生・中生・下生に分かれ、全体で九階級ある。
子ども…乳母の子供たち。
限り…身分的制約。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線（1）・（3）・（5）・（7）の意味として、もっとも適当なものを次の中から選べ。

（1）「しるしに」

A　前兆で　　B　ききめで　　C　予想どおりに　　D　目印に

（3）「おこたりがたく」

A　治りそうになく　　B　まちがいを犯しそうに
C　怠けることができなそうに　　D　愚かしそうに

（5）「いはけなかりけるほどに」

A　言いようのなかったときに　　B　年老いたときに
C　生まれたときに　　D　幼かったときに

（7）「おしなべたらぬ」

A　すべてではない　　B　世間並みではない　　C　非凡ではない　　D　ありきたりな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線（２）「今なむ阿弥陀仏の御光も心清く待たれはべるべき」とは、どのような心境をいったものか。もっとも適当なものを次の中から選べ。

Ａ　往生に執着する気持ち。
Ｂ　死を受け入れようとする気持ち。
Ｃ　往生をあきらめようとする気持ち。
Ｄ　死を恐れる気持ち。
Ｅ　往生への希求と死の恐怖のはざまで揺れ動く気持ち。

問三　傍線（４）「まして」の後には省略がある。補うべき内容として、最も適当なものを次の中から選べ。

Ａ　「子ども」と「君」を平等に育てたことは
Ｂ　「君」を「まほ」に見なさなかったことは
Ｃ　「かたほ」である「君」を「まほ」に育てあげたことは
Ｄ　「かたほ」である「子ども」を「まほ」に育てあげたことは
Ｅ　「まほ」である「君」を育てたことは

問四　傍線（６）「さらぬ別れはなくもがな」を、具体的で平易な現代語に訳せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　本文の内容と合致していないものを次の中から一つ選べ。

A　これまでどおり光源氏にお仕えしたくて、乳母は出家を躊躇（ちゅうちょ）していた。
B　長生きして自分の立身出世を見届けてほしいと、光源氏は乳母を励ました。
C　光源氏は、自分を養育した人たちの中で、尼君に一番親しみを感じていた。
D　光源氏が成人した後は、それ以前のように頻繁に乳母に会うことはできなくなった。
E　乳母の子供たちは、光源氏に愚痴をこぼす母を、終始非難がましくながめていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講　『源氏物語』（作り物語）

①「頼みきてひさしくなりぬ住吉のまづこのたびのしるし見せなむ」の傍線部の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　霊験を見せてほしいと神に願っている。
イ　崇(たた)りの理由を教えてほしいと頼んでいる。
ウ　自分の信仰の証拠が見せられないことを嘆いている。

②「おこたる」の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　過ちを犯す　　イ　病気が軽くなる
ウ　効き目がなくなる　　エ　油断する

③「いとけなし」の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

イ　かわいい　　ロ　幼い　　ハ　かしこい　　ニ　無邪気な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講
〔解答〕

問一　（1）B　（3）A　（5）D　（7）B　**問二**　B
問三　E　**問四**　死別はあってほしくない　**問五**　E

〔現代語訳〕

尼君も起き上がって、「心残りもないこの身ではございますが、出家しづらく思いましたことは、ただこのように御前に参上しお目にかかりますことが（出家しましては）できなくなってしまいますようなことを、残念に思いましてためらっておりましたけれど、受戒しましたご利益で生き返りまして、こうしてお越しになられるお姿を拝見いたしましたので、今はもう阿弥陀仏のお迎えも邪念なくお待ちすることができそうでございます」などと申し上げて、弱々しそうに泣く。（源氏の君は）「このところ治りそうにない容態でいらっしゃるのを、気が気でなく心配していましたが、このように世を捨てた尼姿になっていらっしゃるので、本当に悲しく残念です。長生きをして、（私が）もっと位が高くなる姿なども見届けてください。そのうえで（極楽浄土の）上品上生にも差し支えなく生まれ変わりなさるがよい。この世に少しでも未練が残るのはよくないことと聞きます」などと、涙ぐんでおっしゃる。

出来の悪い子でさえ、乳母のような可愛がるのが当然の人はあきれるほど出来の良い子と思い込むものなのに、まして（申し分のない君を育てたことは）たいそう晴れがましく、親しくお側にお仕え申し上げた自分の身までも大切にもったいなく思われるようなので、むやみに涙を流している。乳母の子供たちはじつに見苦しいと思って、「捨ててしまったこの世に未練があるかのように、自分から泣き顔になってご覧に入れていらっしゃる」と、つつき合って目配せしている。

源氏の君はたいそう気の毒にお思いになって、「幼かったときに、可愛がってくれるはずの人たちが亡くなってしまわれた後、（私を）育ててくれる人はたくさんいたようだったけれども、心から愛し親しむという点ではあなたにまさる人はないと思われました。大人になってからは、きまりもあることなので朝に晩にとはお目にかかることができず、思うようにお訪ね申し上げる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ことはないけれど、やはり長く会わないときは心細く思われるので、避けられない別れ（＝死別）はあってほしくないと思うのです」などと親しくお話しになって、涙をお拭いになった袖の香も、あたり一面に薫り満ちるので、「なるほど（源氏の君と乳母は）実に思えば、世間並みではない因縁なのだよ」と、尼君を非難がましく見ていた子供たちもみな涙にくれるのだった。

〔重要単語〕

○くちをし【口惜し】…①**残念だ**。②**つまらない**。③卑しい。
○しるし【徴・験】…①**前兆**。②霊験。**ききめ**。
【著し】…①**はっきりしている**。②予想どおりだ。
【印・証・標】…①目印。②証拠。③合図。
○おこたる【怠る】…①なまける。②**病気がよくなる**。
○ものす【物す】…①ある。いる。②いろいろな動詞の代わりに用いる。
○やすし【安し】…①**心が穏やかである**。②安っぽい。
【易し】…**簡単だ**。
○さはる【障る】…**さまたげられる**。さしつかえる。
○おもだたし【面立たし】…**名誉だ**。晴れがましい。
○かたじけなし…①**恥ずかしい**。②**恐れ多い**。
○すずろなり【漫ろなり】…①**なんとなく〜だ**。②**むやみやたらである**。③思いがけないさま。④何の関係もないさま。
○いはけなし…**子供っぽい**。※「いとけなし」も同意語。
○あまた【数多】…**たくさん**。※「ここら」「そこら」も同意語。
○むつぶ【睦ぶ】…親しくする。**仲よくする**。
○またなし【又無し】…**またとない**。二つとない。
○とぶらふ【訪ふ】…①訪れる。見舞う。②尋ね求める。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○さらぬ【然らぬ】…**そうでない。**

【避らぬ】…**避けられない。**　※さらぬ別れ＝死別

○ところせし【所狭し】…①場所が狭い。②**窮屈だ。**　③**堂々としている。**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第八講　『源氏物語』（作り物語）

〈解説〉

①　「しるし」の意味からアの「**霊験**」か、ウの「**証拠**」。「なむ」の識別で、上がサ行下二段動詞「見す」の未然形か連用形。**未然形なら他者願望の終助詞、連用形なら強意＋推量の助動詞**になるが、どちらにせよ、ウの「嘆く」の意味はとれない。よって、正解はア。ちなみに「なむ」は他者願望の終助詞で、上の「見せ」が未然形だったということである。

②　「おこたる」＝「病気がよくなる」。よって、正解はイ。

③　「いとけなし」＝「幼い」。よって、正解はロ。

〈解答〉

①　ア　②　イ　③　ロ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。